

## ニューヨーク市における初等音楽教育 (2)

— ニューヨーク市の芸術教育標準とその音楽教育 —

### Elementary Music Education of New York City (2)

— “Blueprint for Teaching and Learning in the Arts” and music education at New York City —

新 村 元 植

Genshoku Shimmura

#### 1 概観

2007年5月に再度米国 New York 市の教育事情を視察することが出来た。前回2004年に訪問することが出来なかった Queens 地区 Region 4 (第4学区) Learning Support Center を訪問することが出来た。そこで Arts Supervisor の Bill Kasuli 氏と面談し、この地区で後音楽教育に力を入れている小学校や音楽学校を視察することが出来た。今回は New York 市の芸術教育標準である “Blueprint for Teaching and Learning in the Arts” の音楽教育標準について分析すると共に、初等教育学校で行われている音楽教育の実態について考察する。

#### 2 Blueprint for Teaching and Learning in the Arts (芸術における指導と学習のための教育指標)

Blueprint for Teaching and Learning in the Arts (以下 Blueprint) は、National Standards for Music Education (全国音楽教育標準) および New York State Learning Standards (ニューヨーク州教育標準) を基にニューヨーク市教育局が2004年度の試行期間を経て、2005年6月に正式に採用した教育水準である。Blueprint は Visual Arts と Music、Dance、Theater についてそれぞれ記述されている。

##### (1) Blueprint の序文

##### ① Introduction (序文)

Blueprint の序文では、ニューヨーク市の公立学校が他の地域にはない、多様な文化に基づいた芸術教育の中心に成り得ることを説き、Blueprint は芸術教育への道筋を示すものであることを説明している。また Blueprint の文章はニューヨーク市教育局の戦略上重要な「地図」で、全米音楽教育水準とニューヨーク州教育標準に準じており、ニューヨーク市公立学校の環境や教授法、学習法でより広がりを持った内容であることが記されている。

次にこれまでの芸術科目では、「科目を基にした教育課程」[(Subject-based curricula) —最終到達目標を中心に学習する] と、「過程を重要視する教育課程」[(Outcome-based curricula) —その目

標に至る過程で学習者は何を知り、どのような技術を得るべきか」のどちらかの教育課程であったが、新しい教育標準ではこのどちらも含んでいることが示されている。

## ②Teaching the Arts to the Children of New York City (ニューヨーク市児童の芸術指導法)

Blueprint は目標達成の計画であり枠組みであると記述し、ニューヨーク市では非常に豊富な芸術的環境が若者にとって毎日利用可能であるが、学校内での芸術教育はまだ十分ではなく、子どもたちの能力を育成し人々のこのような芸術的努力に敏感になるべきであると記述している。また芸術は子どもたちが互いに個人的に文化的に模倣するという「知る方法」を構成することが重要であるとしている。

## ③Five Strands of Arts Learning (芸術学習のための5つの指標)

ここでは、美術と音楽の芸術学習全体を含む以下の5つの学習指標を説明している。後述の音楽では、これらを基に独自の指標を設定している。

- i) Arts Making (芸術構成)
- ii) Literacy in the Arts (芸術の読み書き)
- iii) Making Connections (他との関連付け)
- iv) Community and Cultural Resources (地域社会と文化的資産)
- v) Careers and Lifelong Learning (キャリア形成と生涯学習)

これらの指標は限定的な教育の情報を示しているのではなく、教育者が如何に児童生徒のために学習体験を構築できるかを説明している。

### i) Arts Making (芸術構成)

芸術構成の指標は第2、第5、第8、第12の各評価学年の終了までに、何を達成することが出来るべきかを示している。これらの学習チャートは学習過程の概略—選択された範囲で習得されるべき技術、知識、その応用や児童生徒の成長と共にどのように才能を磨くか—を規定している。

### ii) Literacy in the Arts (芸術の読み書き)

それぞれの芸術は技術を定着させるだけでなく、教育課程を横断する学習を支える独自の語彙と読み書きの方法を持っている。たとえば音符はそれ自体で一つの言語であるが、読譜の技術が進歩している児童生徒は同時に読書力の向上に効果的である。同様に、芸術作品の注意深い鑑賞は綿密な文章を読むことに似ている。これは観察と描画に推測を働かすことも含んでいる。

### iii) Making Connections (他との関連付け)

この指標は児童生徒が理解するであろう芸術の社会的、文化的、歴史的背景を規定している。またこれと同時に、教育課程における他の教科とのいくつかの関連性も示している。

児童生徒は芸術で学習した知識や技術が、彼らをとるまく世界の理解を助けることを期待している。

### iv) Community and Cultural Resources (地域社会と文化的資産)

ニューヨーク市は地域社会や文化的資産が豊かである。児童生徒は研修会や学校、地域の団体、図書館、音楽会、大会そして文化的、経済的な多様さを市にもたらず芸術家との活動的な関わり持つべきである。このような資産は若い芸術家や音が如何に必要不可欠であり、視野を広げ学校での教育を補強する。

v) Careers and Lifelong Learning (成功と生涯学習)

何人かの児童生徒が芸術関連分野での成功を追求する一方、ほとんどの児童生徒にとっては芸術とは、表現することを意味し生涯にわたる楽しみとして理解している。芸術活動で経歴を積む技術を学習するためには、以下の全ての他分野における努力が要求される。到達目標の設定、企画、単独またはチームでの成果等である。

④ニューヨーク州教育標準 (Learning Standards) との整合性

1996年4月に告示されたニューヨーク州教育標準である「学習標準」(Learning Standards)では、Standard 1 から Standard 4 までを Grade 1から Grade 12の学年において、それぞれ Elementary (初級)、Intermediate (中級)、Commencement (高校卒業程度) の3段階に区分されているが、実際の現場ではさらに具体的な達成目標が必要であった。このことから、ニューヨーク市の“Blueprint for Teaching and Learning in the Arts”では、上記の「芸術学習のための5つ指標」(Five Strands for Arts Learning)を設定し、それぞれに K-Grade 2 (幼稚園年長-第2学年)、Grade 3-5 (第3学年-第5学年)、Grade 6-8 (第6学年から第8学年)、Grade 9-12 (第9学年から第12学年)までの4段階に区分し達成目標を設定したのである。以下にニューヨーク州教育標準における Learning Standards の4項目の芸術指標とニューヨーク市 Blueprint の芸術指標である Five Strands of Arts Learning との整合性について示した。

Standard 1 : Creating, Performing and Participating in the Arts (芸術を創造し演奏演技し、参加する)

「児童生徒を芸術(ダンス、音楽、演劇、美術)において創造と演奏演技を構成する課程に活動的に従事させること、そして芸術の様々な役割に参加させること。」

Blueprint の Five Strands of Arts Learning では、i) Arts Making (芸術構成)で説明されている部分である。ニューヨーク州教育標準の Creating (創造)と Performing (演奏演技)について Blueprint の Strands では、Arts Making (芸術構成)として示し、より具体的に第2、第5、第8、第12学年の終了までに何を達成するべきかの学習チャートを示している。

Standard 2 : Knowing and Using Arts Materials and Resources (芸術の素材と資源を認識し活用する)

「児童生徒に芸術の様々な役割に参加させることにより、活用可能な素材と資源を認識させ活用させること。」

Blueprint の Five Strands of Arts Learning では、iv) Community and Cultural Resources (地域社会と文化的資産)およびiii) Making Connections (他との関連付け)に対応し、Community (地域社会)でニューヨーク市のより具体的な Cultural Resources を認識し、さらに Connection (関連付け)することを求めている。

Standard 3 : Responding to and Analyzing Works of Art (芸術作品に反応し、それを分析する)

「児童生徒に様々な作品に批評的に反応し、他の作品や人間の努力と思想を他の作品と関連付けさせる。」

Blueprint の Five Strands of Arts Learning では、ii) Literacy in the Arts (芸術の読み書き) として、分析するには、芸術の基礎知識を習得する Literacy (読み書き) の技術が必要であることを示した。その上でiii) Making Connections (他との関連付け) とも関連して分析することを示した。

Standard 4 : Understanding the Cultural Dimensions and Contributions (芸術の文化的特性と貢献について理解する)

「児童生徒に個人や文化の影響力が芸術的な意思疎通を形作ることや、過去と現在の社会における様々な文化形態において、どのように芸術が形成されたかについて理解を深めさせる。」

Blueprint の Five Strands of Arts Learning では、iv) Community and Cultural Resources (地域社会と文化的資産) に対応する指標である。ニューヨーク市が多様で豊かな文化資産を活用することが可能であることを提示し、iii) Making Connections (他との関連付け) とも関連付けて、ニューヨーク州教育標準との整合性を示している。

Blueprint の Five Strands of Arts Learning とニューヨーク州教育標準の Learning Standards を比較すると、Blueprint の i) ~ iv) に上記ニューヨーク州教育標準が含まれていることが理解できる。また、Blueprint の v) Careers and Lifelong Learning (成功と生涯学習) はニューヨーク市が独自に付加した指標である。これはニューヨーク市が他の州都市と比較して豊かな芸術資源があり、将来においてその中で仕事を得る児童生徒が存在する可能性を予想していることが理解できる。

(2) Blueprint における Music の内容

Blueprint の Music については、以下の内容が記述されている。Five Strands of Arts Learning に準じた音楽の5つの指標の中で、◇Music Making◇Music Literacy◇Music Connections は General Music, ・Choral / Vocal Music, ・Instrumental Music の3分野で K-12を4区分し、履修すべき内容が教育標準として詳細に示されている。◇Community and Cultural Resources◇Careers in Music は音楽の3分野でまとめて示してある。本論文ではこれら全ての教育課程の中で Blue Print における音楽教科の序文とも言うべき Repertoire in Music: Why It's Important と日本の音楽教育に対応する総合音楽 (General Music) の教育課程を取り上げる。

【Blue Print の音楽教科説明項目】

- Repertoire in Music: Why It's Important
  - General Music:           ◇Music Making       ◇Music Literacy       ◇Making Music
  - Choral / Vocal Music:   ◇Making Music       ◇Music Literacy       ◇Making Connections
  - Instrumental Music:     ◇Making Music       ◇Music Literacy       ◇Making Connections
  - General / Vocal / Choral / Instrumental Music: ◇Community and Cultural Resources ◇Careers in Music
  - Suggested Songbook for Grades 1-12 Benchmarks
  - Appendices
- ①Repertoire in Music: Why It's Important

Music Blueprint は音楽作品を体系化する。音楽作品は以下の5点全ての指針 (Strands) を教える基本とする。音楽作品を通して生徒は以下の5点を学習する。

- 音楽の技能と表現能力を得る。
- 音楽的な読譜や記譜が出来るようになる。
- 音楽を社会的、歴史的、文化的に関連付ける。
- 文化団体の後援を体験することにより心を豊かにする。
- 音楽的な成功体験を学習することにより音楽の価値だけではなく、表現することの意義や喜びの源泉を学習する。

太字で強調された選択部分（註1）は、5点全ての指針が織り込まれた音楽作品の例である。1編の音楽が、異なる指針を含む音楽の方向性の助言や演奏の準備における足場として役立つのである。

例：K-2（幼稚園年長から第2学年）の総合音楽で“De Colores”を学習している間に児童は：

- 歌唱、演奏、応唱、即興を通して基礎的演奏技術を発達させる。
- テンポ、強弱、拍子、表現形式等の音楽概念における読み書き能力を発達させる。
- 詩を読むことや芸術作品を鑑賞することを通して音楽への関連付けを図る。

音楽クラスで学習することは、芸術家としての道を広げる共同作業を教えていることかもしれない。また、自然に音楽的な好機や成功を探求する先導役になるかもしれない。

②MUSIC MAKING: GENERAL MUSIC（音楽の構成：総合音楽）

この項では第2学年・第5学年・第8学年・第12学年に評価基準を置き、達成度の基準としている。また、各学年ごとに Singing（歌唱）・Playing（演奏）・Expressive movement / Re-sponse（感動表現／反応）・Improvising and Creating（即興演奏と創作）の4分野が設定されている。

そして文頭には以下の文章が掲げられている。

「音楽の構成を通して、音楽の技術や考えたことの自己表現、音楽学習者としての感じ方、音楽要素の応用や利用、表現しやすくするための技術を発達させる。」

以下は各学年区分ごとの評価基準である。

Grade 2 Benchmarks（第2学年評価基準）	Grade 5 Benchmarks（第5学年評価基準）
<p>音楽的な探求や発見を通して、児童は音楽の学習者としての考え方や感じ方を自分で表現することが出来る。そして話し方や歌い方、演奏、動作、創作を通して、音楽的想像力を発達させる。</p>	<p>正式な音楽技能を発展させることを通して、児童が自分の表現方法や音楽の才能を発達させる始める間において児童が演奏や創作を行うことは、より高い技能や音楽作品に挑戦する気持ちを引き出す。</p>
<p>歌 唱</p>	<p>歌 唱</p>
<p>斉唱の学習、歌唱、演奏／クラスに提示された英語や外国語の歌で遊ぶ。その際には以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現や感性</li> <li>・音程</li> </ul>	<p>他の児童と学習し斉唱および合唱する。</p> <p>斉唱・輪唱・パートナーソング・言葉によるオスティナートパートを持つ、または持たない旋律のある歌曲等は以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現と感覚</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム</li> <li>・D (レ) から1オクターブの音域</li> </ul> <p>ふさわしい作品：</p> <p>“This Little Light of Mine” (Spiritual)          “De Colores” (Mexican Folk Song)          “Chekki Morena” (Puerto Rican Folk Song)          “Kaeru No Uta” (Japanese Folk Song)          “Gong Xi Ni” (Chinese Folk Song)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音程</li> <li>・歌唱音域はD 1 (レ) からF 2 (ファ)</li> </ul> <p>ふさわしい作品：</p> <p>“Yonder Come Day” (Spiritual),          “The Path to the Moon” (English Song),          “Swing Low, Sweet Chariot” (Spritual),          “Funga Alafia” (Swahili)</p>
<p>演 奏</p>	<p>演 奏</p>
<p>音程楽器と無音程楽器の音色について発見し探求する。その際には以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現や感性</li> <li>・リズムの形</li> <li>・強弱</li> <li>・テンポ</li> </ul> <p>ふさわしい作品：</p> <p>オルフ・コダーイ・ダルクローズ</p>	<p>伝統的な楽器や新しい楽器を演奏することにより、異なる音程を認識し以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現と感覚</li> <li>・強弱</li> <li>・テンポ</li> <li>・オスティナートの音型</li> <li>・5音階等の5音を用いた音型の使用</li> <li>・5音階の長調および短調</li> </ul> <p>ふさわしい作品</p> <p>オルフ、コダーイ、ダルクローズの選択曲や歌曲を含む作品。第3学年からはリコーダーやその他の旋律楽器を学習する機会が与えられること。</p>
<p>動作表現／反応</p>	<p>動作表現／反応</p>
<p>既知の歌に関連付けた運動活動を通して、その旋律やリズムの型を探求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く</li> <li>・ゆっくり走る</li> <li>・スキップ</li> </ul> <p>動作や身ぶりを使用した劇的な表現：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽伴奏付きのよく知られた物語</li> <li>・クラスで学習したオペラの一場面</li> </ul> <p>例として：</p> <p>ヘンデルとグレーテル (フンパーディンク) 真夏の夜の夢 (ブリテン)</p> <p>連続する出来事や雰囲気、場面における間隔に</p>	<p>動作、リズム、関係動作、基本形をとおし、以下に関連付けて身体表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く</li> <li>・ゆっくり走る</li> <li>・走る</li> <li>・スキップ</li> </ul> <p>他の文化を代表する伝統的な踊り歌を学習し歌唱する。</p> <p>例として：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“Hineh Ma Tov” (Hebrew Melody)</li> <li>・“Jambo” (Swahili)</li> <li>・“Jingle at the Windows” (American Folk Song)</li> </ul>

<p>注意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語歌：</li> </ul> <p>“John the Rabbit” (American Folk Song)                  “My Horses Ain’t Hungry” (American Folk Song)                  “This Old Hammer” (American Folk Song)</p>	
<p>即興演奏と創作</p>	<p>即興演奏と創作</p>
<p>伴奏を入れた簡単な歌や賛美歌を即興演奏する。また物語を伴う主題性を持った音の風景を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋律曲線を探求し、子ども用の音楽ソフトを用いて旋律を創作する。</li> </ul> <p>例として：</p> <p>“Making Music” a CD-ROM by Morton Subotnik, <a href="http://creatingmusic.com">creatingmusic.com</a></p> <p>音程打楽器のオスティナート伴奏による旋律的楽句の即興演奏。</p>	<p>物語を基にし、自分で見つけた物や自作の伝統的な楽器や新しい楽器のアンサンブルで最も重要な部分を取り込んだ音の風景を創作する。</p> <p>声だけでなく旋律楽器（例：リコーダー、シロホン）を使用した簡単な質問と答えの応答を即興演奏する。</p> <p>場面の雰囲気や活力等を対比させた電氣的または自然音響を使用する限定したガイドラインに基づいた二部形式作品の創作</p> <p>（例：3音程と2音色を使用する）</p>

Grade 8 Benchmarks (第8学年評価基準)	Grade 12 Benchmarks (第12学年評価基準)
<p>より発展的な演奏と創作活動を通して、児童がより深く音楽の才能を理解し、音楽における個々の関連や幅広い視野を発達する。</p>	<p>様々な学習課題に目を向けることにより、生徒は演奏や創作の質における指針を理解する。そしてそれは、生涯を通して音楽を学習することになり、シンボを追求する機会になる。また音楽の学習は大学レベルの職業または音楽を専門とする職業とするための準備段階として連続している。</p>
<p>歌 唱</p>	<p>歌 唱</p>
<p>ニューヨーク市を構成している無数の文化を代表する音楽作品の歌唱を継続発展させるために以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽的表現と感覚</li> <li>・ 文化的表現</li> <li>・ 呼吸法</li> <li>・ 歌唱姿勢</li> <li>・ 声の音色</li> </ul>	<p>西洋とそれ以外の文化を代表する、幅広い歌曲の作品について学習し実践し習得する。その際に以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽表現と感性</li> <li>・ 様式と演奏実践</li> <li>・ 呼吸法</li> <li>・ 歌唱姿勢</li> <li>・ 声の音色</li> </ul>

<p>・合唱する技術 ふさわしい作品： “Samba Lele” (Alfonso), “Lift Every Voice and Sing” (Johnson), “La Borinquena” (Astol Artes), “It Don't Mean A Thing” (Mills, Ellington)</p>	<p>・合唱技術 ふさわしい作品： “Que Bonita Bandera” (Puerto Rican Folk Song) “Humming Chorus” from Madama Butterfly (Puccini)</p>
演 奏	演 奏
<p>リズムや和音を研究しながら伝統的楽器や新しい楽器を演奏し、以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現と感覚</li> <li>・強弱</li> <li>・テンポ</li> <li>・リズム感覚と和音感覚</li> <li>・ポリフォニーとホモフォニー</li> <li>・カノン</li> <li>・伴奏</li> <li>・全音階的音階の使用</li> </ul> <p>ふさわしい作品： 上記の歌唱作品からの選択を含む</p>	<p>伝統楽器とそれ以外の楽器について外形と構造を研究する。その際に以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現と感性</li> <li>・強弱</li> <li>・リズムと和音音型</li> <li>・多声音楽と単旋律音楽</li> <li>・半音階と微音程音階の使用</li> </ul> <p>ふさわしい作品： 上記の歌唱作品から選択されたものを含む</p>
動作表現／反応	動作表現／反応
<p>より洗練されたリズムフレーズを楽器で演奏する。(足踏み、手拍子等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現</li> <li>・強弱</li> <li>・明瞭な発音</li> </ul> <p>身体表現、身ぶりおよび音楽の関連性に留意し、音楽劇作品の一場面を劇的に表現する。</p> <p>例として：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ West Side Story (Bernstein / Sondheim)</li> <li>・ Grease (Jacobs / Casey)</li> <li>・ The King and I (Rodgers / Hammerstein)</li> </ul>	<p>楽器 (足踏み、手拍子、足を踏みならず等) 複合拍子を使用した楽曲を発展させる。その際に以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現</li> <li>・強弱</li> <li>・明瞭な発音</li> <li>・曲の楽区的区切り</li> </ul> <p>ミュージカルやオペラの選択リストから設定や性格描写を限定し、どのような身ぶりや動作をするかに留意し、劇的に表現する。</p> <p>ふさわしい作品：以下を含む</p> <p>“Madama Butterfly” (Puccini), “Don Giovanni” (Mozart), “Sweeney Todd” (Sondheim / Wheeler), “The Pirates of Penzance” (Gilbert / Sullivan)</p>



即興演奏と創作	即興演奏と創作
<p>様々な音楽形式を鑑賞した後、特定の選択した音楽形式を反映し、気に入った旋律を MIDI を使用して編曲する。その際に以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム</li> <li>・テンポ</li> <li>・楽器編成</li> </ul> <p>オーケストラに存在する弦を弾いたり、たたいたり吹いたりする楽器群で輪唱曲を創作する。強い個人の音楽体験を反映させた楽曲を創作する。声や適切な楽器の楽曲を演奏する。</p>	<p>ブルース歌曲の和音構造やリズム構成を理解した後、意味や感情に敏感な歌詞を含む12小節のブルースを創作する。クラスでそれについて指導し、全員で歌う。</p> <p>以下の資料を使用し主題と変奏の音の風景を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音見本</li> <li>・ボディパーカッション</li> <li>・創作楽器</li> </ul> <p>発見した物や創作楽器を使用した合奏曲を創作する。楽曲を創作する際の合奏については、いかに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽様式</li> <li>・多旋律音楽</li> <li>・複合拍子</li> <li>・音色</li> </ul>

③MUSIC LITERACY: GENERAL MUSIC（音楽の読み書き：総合音楽）

この項では他の項と同じく第2学年、第5学年、第8学年、第12学年に評価基準を置き、Respond Imaginatively to the expressive qualities of musical works〔音楽作品の表現の質について想像力豊かに反応する〕、Listen critically through analyzing works of music〔音楽作品を分析しながら注意深く鑑賞する〕、Understand and apply written musical notation (Traditional and non-traditional)〔記譜された音楽記号を理解し応用する（伝統的または新しい物）〕、Understand and use music vocabulary〔音楽用語を理解し使用する〕の4分野が設定されている。また、この項の冒頭には以下の説明がなされている。

「学習してきた様々な音楽様式やジャンル、作品を利用することにより、児童生徒は音楽的な読み書きが出来るようになる。」

Grade 2 Benchmarks（第2学年評価基準）	Grade 5 Benchmarks（第5学年評価基準）
<p>音楽作品の表現の質について想像力豊かに反応する</p>	<p>音楽作品の表現の質について想像力豊かに反応する</p>
<p>“De Colores”のような選択された音楽教材を鑑賞することにより、楽曲の以下の変化に反応すること。</p>	<p>“Dance Macabre” (Saint-Saens)等のオーケストラ曲を鑑賞し、小グループで雰囲気再現について話し合う。各グループの一人の児童に意見</p>

<p>・テンポ ・拍子 ・強弱 ・様式 (ダルクローズリズム体操はこの活動の良い資料になるだろう。Dalcrozeusa.org)</p> <p>「幸福・悲しみ・残念・面白い」等の説明的な言葉を用い、録音された楽曲を普通の雰囲気の中で表現し、反応する。</p>	<p>を発表させ、クラスで異なる反応について対比、対照させる。</p> <p>小グループのままで“Swing Low, Sweet Chariot.”のような黒人霊歌を鑑賞する。その後この歌が引き起こす感情について話し合い、反応をパントマイムで演技し表現する。</p>
<p>音楽作品を分析しながら注意深く鑑賞する</p>	<p>音楽作品を分析しながら注意深く鑑賞する</p>
<p>安定した鼓動(心臓の鼓動)とよく知っている歌曲のリズム音型との違いを区別する。</p> <p>クラスで使用している楽器を音色により認識し確認する。(オルフの楽器は楽器の正確を学習する良い機会を提供する)</p>	<p>標題音楽である楽曲の物語において作曲家が強弱やテンポ、楽器編成をどのように使用しているかを話し合う。それぞれの目立つ楽器が属するオーケストラの一群を確認し、録音した曲をかけた時にそれを示す。</p> <p>ふさわしい鑑賞選択曲： “Sorcerer’s Apprentice” (Dukas), “Peter and the Wolf” (Prokofief), “Dance Macabre” (Saint-Saens),</p>
<p>(※) オーケストラに属する楽器について認識し、録音された楽曲が演奏される際に確認する。 ふさわしい鑑賞選択曲： “Young Person’s Guide to the Orchestra” (Britten)</p>	<p>簡単な音楽様式とその特徴について確認する。 ふさわしい鑑賞選択曲： “Rond 'Alla Turca” (Mozart), ABA “Twinkle Twinkle Little Star” (Traditional) (※) へつづく</p>
<p>記譜された音楽記号を理解し応用する (伝統的または新しい物)</p>	<p>記譜された音楽記号を理解し応用する (伝統的または新しい物)</p>
<p>図形化された記譜記号を用い、音とその図形化された表記との関連性についての認識を発達させる。</p> <p>以下を用いた簡単なリズム音型を読譜し演奏する。 ・四分音符 ・2連符 ・四分休符</p> <p>創作した短い即興曲に独自の音楽記号を使用す</p>	<p>高音部の楽曲の音楽記号について認識し確認する。</p> <p>音楽記号を理解し簡単な5音音階の旋律を作品の中から書き留め、下記の音符について使用する。 ・全音符 ・二分音符 ・四分音符 ・八分音符そして高音部の楽曲の八分休符</p>

る。	伝統的、また新しい音楽記号を使用し、短い音楽作品を創作し演奏する。
音楽用語を理解し使用する	音楽用語を理解し使用する
<p>以下のような音楽の相対的な描写的音楽用語について身につけ、使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程の高-中-低</li> <li>・音量が大きい-中程度-静か</li> <li>・テンポが速い-中くらい-遅い</li> </ul> <p>以下の点に留意し、児童の演奏について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽音</li> <li>・明瞭な発音</li> <li>・合奏</li> </ul>	<p>以下のような音楽に特有の専門用語を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程（音名と発音の音楽基礎練習）</li> <li>・強弱（フォルテからピアノ）</li> <li>・テンポ（アレグロからアンダンテ）</li> <li>・フレージング</li> <li>・旋律構造（順次進行と跳躍進行）</li> </ul> <p>音楽演奏評価の判断基準を発達させ、意見と反応をハッキリ言うことが出来る。</p>

Grade 8 Benchmarks（第8学年評価基準）	Grade 12 Benchmarks（第12学年評価基準）
音楽作品の表現の質について想像力豊かに反応する	音楽作品の表現の質について想像力豊かに反応する
<p>ジャズアンサンブルの “It Don’t Mean A Thing” (Mills, Ellington) 等を鑑賞し、音楽作品に触発された感情や創造を基に芸術作品を創作する。</p> <p>ニューオリンズスタイルジャズの葬送行進曲を鑑賞し、音楽に感動させる。この曲において表現の質の高さについて話し合い、他の文化における葬送行進曲についても参照させる。</p>	<p>大編成のジャズアンサンブル（例：Duke Ellington Orchestra）を鑑賞し、音楽の反応を基にした媒体（詩、短編、演劇、等）を書期表す。</p> <p>音無しの映画やビデオの選択した一場面を見る。どのような音楽がその場面の背景音楽か想像する。そのフィルムのために作曲された音楽と同時に見る。そのサウンドトラックの効果を話し合う。</p>
音楽作品を分析しながら注意深く鑑賞する	音楽作品を分析しながら注意深く鑑賞する
<p>図表による鑑賞図を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様式</li> <li>・主題の展開</li> <li>・管弦楽法</li> <li>・様々な楽曲の強弱</li> </ul>	<p>鑑賞記録を取り続けることにより、音楽の基本的要素を利用して作曲家を多様な方法で、その類似性と差異について話し合うことが出来るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ludwig van Beethoven</li> </ul>

<p>ふさわしい鑑賞選択曲： “All Blues” (Davis)</p> <p>適切な技術を使用した独自の楽曲の鑑賞図を作成する。以下について明確に判断させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様式</li> <li>・主題</li> <li>・楽器編成</li> <li>・強弱</li> </ul> <p>3 / 4 拍子や 6 / 8 拍子、5 / 4 拍子のような混合拍子について確認し、ヘミオラのリズムを敲かせる。</p> <p>ふさわしい鑑賞選択曲： “America” from West Side Story, “Take Five” (Brubeck)</p> <p>種々の文化の伝統楽器を鑑賞する。以下のついで西洋の楽器との対比し対照する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音色</li> <li>・演奏法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Chalie Parker</li> </ul> <p>異なるスタイルの音楽で、同じ楽器での演奏を鑑賞する。以下を対比する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音質</li> <li>・発音</li> <li>・リズムの明瞭さ</li> </ul> <p>ふさわしい鑑賞選択曲： Recordings by James Galway (Flute), Recordings by Wynton Marsalis (Trumpet)</p> <p>同じ曲を合唱と器楽に編曲した曲を鑑賞する。以下を対比する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不可欠の構成要素 (総譜を利用する)</li> <li>・音色</li> <li>・様式</li> </ul> <p>ふさわしい鑑賞選択曲： “It Don’t Mean a Thing” (Ellington)</p>
<p>記譜された音楽記号を理解し応用する (伝統的または新しい物)</p>	<p>記譜された音楽記号を理解し応用する (伝統的または新しい物)</p>
<p>高音部譜表と低音部譜表の音楽記号と音程について認識し確認する。</p> <p>以下のリズム的音価を含む全音階の旋律を、演奏可能な音域の楽器で読譜し演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全音符</li> <li>・二分音符</li> <li>・四分音符</li> <li>・八分音符</li> <li>・高音部譜表、低音部譜表それぞれの四分休符</li> </ul> <p>8小節の楽句を伝統的記譜法で作曲し記譜し演奏する。</p>	<p>高音部と低音部の譜表の音程について認識し確認し記譜する。また他の音部記号についてもよく知るようになる。</p> <p>様々な音価の全音階旋律を読譜し、視唱する。</p> <p>作曲のソフトウェアを利用して通常の音楽記号で、独自の楽曲を創作し演奏する。</p>
<p>音楽用語を理解し使用する</p>	<p>音楽用語を理解し使用する</p>
<p>特有の音楽専門用語を使用し、作曲家が特定の曲において音楽的効果を達成するために、どのように強弱、音域、リズム、楽器編成等を使用しているかを対比し対照する。</p>	<p>オペラやミュージカルのような二つの違うジャンルの音楽を、適切な音楽用語を使用し説明する。例として、La Boheme (Puccini) と Rent (Lason); Madama Butterfly と Miss Saigon</p>

<p>ふさわしい鑑賞選択曲：                  “The Planets” (Holst), “Star Wars” (Williams)</p> <p>音楽演奏評価の判断基準を発達させ、個々の関連性や反応について説明出来る用になる。また、適切な音楽用語を使用できるようになる。</p>	<p>(Boublil / Schonberg)</p> <p>以下を含み話し合う：                  ・場面設定と総譜                  ・話した言葉の利用                  ・登場人物の音楽的描写</p> <p>コンサートや音楽の上演の参加後、適切で描写的な音楽用語の使用に注意し、批評を書く。</p>
---	---

④MAKING CONNECTIONS: GENERAL MUSIC (他との関連付け：総合音楽)

この項では他の項と同じく第2学年、第5学年、第8学年、第12学年に評価基準が設定され、Understand the role of music [音楽の役割を理解する]、Apply musical concepts and skills learned [学習した音楽概念と技術の応用] の2分野について以下の説明文が冒頭に掲げられている。

「児童生徒は彼らの演奏、創作、即興演奏する音楽で他との関連づけを図る。」

Grade 2 Benchmarks (第2学年評価基準)	Grade 5 Benchmarks (第5学年評価基準)
<p>音楽の役割を理解する</p> <p>Jose Luis Orozco の本から同名タイトルの “De Colores” の詩を読む。</p> <p>“De Colores” の歌を歌い、鑑賞する。</p> <p>以下の点に留意し詩と歌を比較する：                  ・リズム ・傾向と反復                  ・歌詞の意味と表現 ・個人的反応</p> <p>以下の点に留意し、詩の雰囲気如何に音楽的設定に影響を与えているか考えを述べる：                  ・旋律 ・テクスチャ ・伴奏                  ・演奏スタイル ・文化的概念                  ・個人的反応</p>	<p>音楽の役割を理解する</p> <p>“Swing Low, Sweet Chariot” を学習すると同時に、アメリカ合衆国の奴隷制自体の黒人霊歌の役割と機能について調査する。</p> <p>以下のような、黒人霊歌を演奏することによりわかる本来の音楽的特徴について話し合う：                  ・先唱 (Call) と応唱 (Response)                  ・リズム的律動の使用                  ・即興</p> <p>現在のアメリカ音楽の発達において黒人霊歌の影響について学習する。</p>
<p>学習した音楽概念と技術の応用</p>	<p>学習した音楽概念と技術の応用</p>
<p>“De Colores” を学習後、Frida Kahlo の絵画を鑑賞または Alejandro Cruz Martinez 作の The</p>	<p>二部形式の楽曲を鑑賞し定義された形式がどのような差異があるかはっきり述べる。以下のよ</p>

<p>Woman Who Outshone the Sun を読書する。</p> <p>以下の点について話し合う：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色の使い方</li> <li>・傾向と反復</li> <li>・テクスチュア</li> <li>・表現法</li> <li>・個人的反応として、歌の中で同じ要素を関連付けさせる。</li> </ul>	<p>うな他の生活面における二部形式の実例を気付かせる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近距離の移動や旅行をする</li> <li>・芸術作品において</li> <li>・建築において</li> <li>・詩歌において</li> </ul>
--	---

Grade 8 Benchmarks (第8学年評価基準)	Grade 12 Benchmarks (第12学年評価基準)
<p style="text-align: center;">音楽の役割を理解する</p> <p>ジャズの歌い方表現の質を調べる際に、ジャズ誕生に導かれたアメリカの19世紀あるいは20世紀初頭の歴史的社会的状況を調査する。</p> <p>以下の項目を含むこと：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有名なジャズ音楽家の生き方</li> <li>・ジャズ様式の違い</li> <li>・声楽、器楽のジャズ作品</li> </ul> <p>Bessie Smith や Ella Fitzgerald のような歌手が具現化した様々なジャズ歌唱様式の発達に導かれたジャズの革命は、どのようであったか話し合う。</p>	<p style="text-align: center;">音楽の役割を理解する</p> <p>“He’s Got the Whole World in His Hands” 等の楽曲を含む作品を学習する際に、黒人霊歌の歴史や互いに関連する様式（ジャズ、ゴスペル、ファンク、ヒップホップ等）を含む遺産を以下を通して辿る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的な図書館での調査</li> <li>・オンラインのインターネット調査</li> <li>・歴史的、現代的に録音された物</li> </ul> <p>以下のような、地域社会における音楽の役割に言及した調査報告書を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・儀式と慣習</li> <li>・祝賀会</li> <li>・社会的活動参加</li> </ul>
<p style="text-align: center;">学習した音楽概念と技術の応用</p> <p>“It Don’t Mean A Thing” のような楽曲の声楽版と器楽版を比較対象する際に、歌の歌詞やハーレムを中心としたインスピレーション、アメリカにおけるジャズ革命の重要性を研究する。</p>	<p style="text-align: center;">学習した音楽概念と技術の応用</p> <p>“Miss Saigon” や “Madama Butterfly” のようなミュージカル作品とオペラ作品の類似と差異について学習すると同時に、以下を通して極東（日本、ベトナム）における、アメリカとの文化の関連性について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の調査</li> <li>・登場人物研究（演劇的、音楽的描写）</li> <li>・音楽分析（旋律借用や伝統的音色）</li> </ul>

（3） ニューヨーク州における芸術標準の比較

芸術標準には全米芸術教育協会（National Arts Education Associations）が1994年に作成した全米芸術標準（National Standards for Arts Education）を基に各州の教育部局が作成した芸術標準（State Arts Standards）とさらに各都市で作成した芸術標準（City Arts Standards）が存在する。これらは、それぞれにおいて指標（Strands）が存在する。これらは各標準の学ぶべき方向性を示しており、その内容を考察することにより米国における「教科」としての方向性が明確になる。全米芸術標準では9項目の指標（註5）が示されている。ニューヨーク州の芸術標準（New York State Learning Standards for The Arts）では（1）、④で示したように4項目指標がこれに対応している。さらにニューヨーク市芸術標準であるBlueprint for Teaching and Learning in the Arts（芸術における指導と学習のための教育指標）では、5項目の指標が対応している。以下はニューヨークを例にした表である。

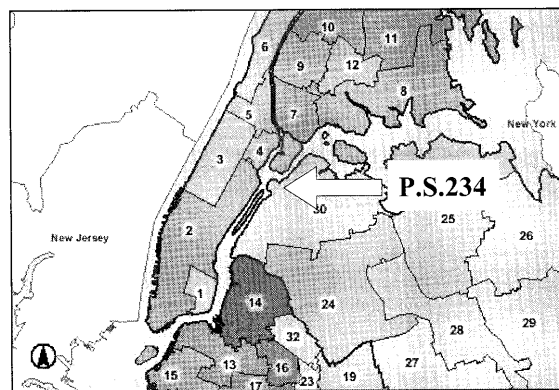
	Standards	学年シーケンス
全米教育標準	9項目の指標	K-4, 5-8, 9-12*9-12を熟達と上級に区分
ニューヨーク州芸術標準	4項目の指標	初級、中級、卒業レベルに区分
ニューヨーク市教育標準	5項目の指標	K-2, 3-5, 6-8, 9-12

3 ニューヨーク市の公立学校

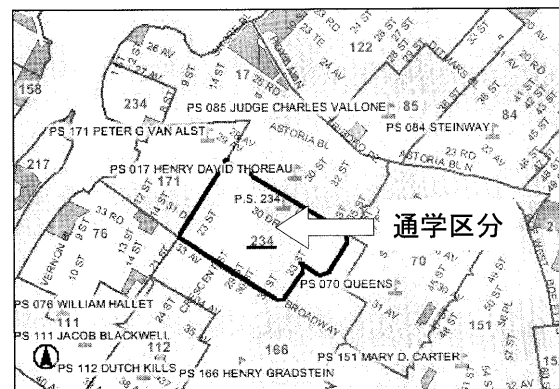
（1） P.S. 234 School

2007年4月下旬から5月上旬にかけてニューヨーク市の公立学校で研修することができた。今回はNew York City Department of Education（ニューヨーク市教育局）Region 4 Learning Support Center（第4学区学習サポートセンター）のArts Supervisor（芸術指導主事）であるBill Kasuli氏に面会し、音楽授業の研究をサポートしていただいた。

ニューヨーク市の公立学校は12学区（註2）に区分され全学区を32の地区に区分している。ニューヨーク市の公立学校数1466校のうち、小学校は814校（註3）で、P.S. 234 Schoolのある第30地区は55校の小学校がある。P.S. 234 Schoolはニューヨーク市Queens地区、第4学区・第30地区の小学校（Primary School）であり、2003年9月に開校した新しい小学校であった。学校選択制は保証されているが、図2のように通学区分があり、ほとんどの児童が保



（図1）



（図2）

護者同伴で徒歩で通学する。図2中央がP.S. 234の通学区分である。2006年のSchool Report Card(註4)によると在籍児童は表1の通りで、Pre-Kinder-gartenから(幼稚園年中)Grade 5(第5学年)までの653名が在籍する。各学年は4クラスで平均クラス人数は23人であり、ニューヨーク市の平均人数である。(註5)教師の学位は、修士以上の学位取得者が全教師49名中42名の85.7%である。人種構成は表2の通りである。ニューヨーク市は歴史的に外国から比較的最近の移住者が多く居住し、それぞれのコミュニティーを形成している。この周辺はギリシャ系アメリカ人が多く居住している地区に隣接しており、教師と児童生徒ともにギリシャ系アメリカ人が多い。今回小学校を案内していただいたBill Kasuli氏もギリシャ系コミュニティー出身である。

学 年	在籍数
Pre-K	36
Kindergarten	105
Grade 1	102
Grade 2	116
Grade 3	97
Grade 4	107
Grade 5	81
Ungraded Elementary	45
合 計	653

人 種	人数	
American Indian or Alaska Native	10	2%
Black or African American	35	5%
Hispanic or Latino	262	40%
Asian or Native Hawaiian/ Other Pacific Islander	190	29%
White	156	24%

### ①モセラ先生の授業

P.S. 234 Schoolの音楽教師であるモセラ(Mr. Christopher Mosera)先生は30代の若い先生であり、授業に対しては大変意欲的であった。児童もモセラ先生の授業に興味関心を示していた。授業は本年度の最終時期であり、3・4年生がリコーダーを学習していた。

#### ○第3学年の授業(水曜日316クラス 10:10-11:00)

下記の学習指導案に記載されているリコーダーの授業であった。児童は18名程度で椅子はあるが、床に座って授業を受けている。基本パターンは、前半ではモセラ先生と児童とのCDE音を1音ずつ、指使いと音を確認する。写真3は授業前半の様子である。その後、学習指導案のProcedureに示すように2名が対になり児童で交互に演奏し曲(音)を確かめる。児童は先生の言葉に良く反応し、常に興味を持って授業を楽しんでいるように見える。児童にとって「音楽は楽しいな教科」(モセラ先生の言葉)なのである。

米国の音楽では一定の教科書は存在せず、各教師の手作りまたは業者の教材を利用する。このリコーダークラスの教材は“Recorder Karate”(図1・2)と題された小冊子を使用していた。この小冊子には9曲が掲載されていたが、児童全員の前で1曲演奏

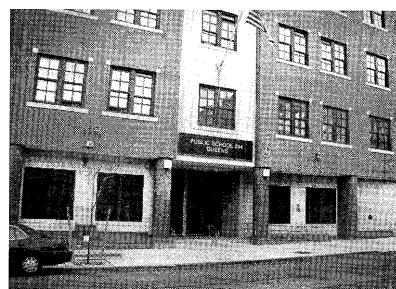


写真1 P.S.234の正面玄関



写真2 Mr.Kasuli・校長・筆者



できるようになると、色の違うひもを先生がリコーダーに結びつける。児童は先生からひもをもらうことが大変誇らしげで嬉しそうであった。

○モセラ先生の学習指導案

3-4 Lesson Plan Recorder Songs

**Goals**

Process Goals

- To move students from lower to higher levels of thought.
- To help students develop critical thinking.
- To develop cooperative learning.

Content Goals: (National and State Standards) (註6)

- Singing, alone and with others, a varied repertoire of music. (1)
- Performing on instruments, alone and with others, a varied repertoire of music. (2)
- Reading and notating music. (5)
- Listening to, analyzing, and describing music. (6)
- Evaluating music and musical performances. (7)
- Understanding music in relation to the arts and disciplines outside the arts. (8)
- Understanding music in relation to history and culture. (9)

Affective Goals

- For students to appreciate the opinions and ideas of their fellow classmates.
- For students to gain the confidence to contribute their own opinions

**Learning Outcomes**

Measurable Objectives:

- Students will clap and speak the rhythms.
- Students will sing the melody with solfege and hand signs.
  - Students will identify the notes on the staff and use the correct fingerings on their recorder.

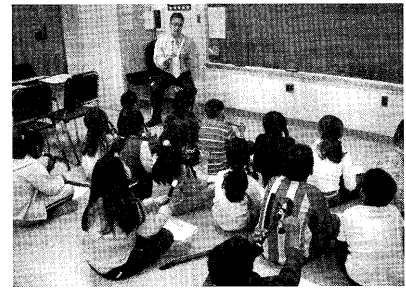

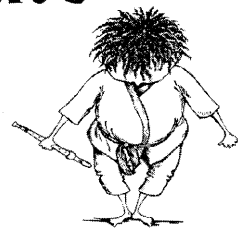


写真3 Grade 3の音楽授業

## Recorder Karate

White -	Hot Cross Buns	GAB
Yellow -	Gently Sleep	GAB
Orange -	Merrily We Roll Along	GAB
Green -	It's Raining	E GA
Purple -	Old MacDonald Had A Farm	DE GAB
Blue -	When The Saints Go Marching In	GABCD'
Red -	Twinkle, Twinkle Little Star	DEF-GAB
Brown -	Amazing Grace	DE GAB D'
Black -	Ode To Joy	D GABCD'


Name \_\_\_\_\_ Class \_\_\_\_\_

© 1997 Fred K. ...  
http://www.kidzworld.com/~fredk/record

1 - White Belt Pitches GAB

### Hot Cross Buns

2 measures (8 beats) introduction on recording Traditional



New things to learn for the White Belt song:


half note = 2 beats

quarter note = 1 beat


time signature = 4 beats in each measure

half rest = 2 beats of silence


new notes:



G



A



B

counting:

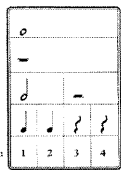


図1 “Recorder Karate” の表紙

図2 その1曲目

- Students will perform the song.

---

### Time Requirements

One - Three 50 minute periods

---

### Equipment / Resources Needed

- Recorders, sheet music

---

### Prerequisite Behaviors

- Ability to read music.
- Knowledge of the fingerings necessary to play the song.

---

### Learning Configuration

- Small group, Large Group

---

### Evaluation

- Students will clap rhythms of the song using the appropriate rhythm syllables.
- Students will sing the melody and correctly the solfege syllable and hand sign for each note.
- Students will perform the song with accurate pitch, rhythm and dynamics.

---

### Procedure:

If there is historical value or any relation to a composer of the month explain it.

Begin REVIEW and EXPLORATION

- Ask if the students see any repeated patterns.
- Lead the students through a quick review of the notes names and rhythms that will be used in the song.
- Have students demonstrate the playing of each note.
- Perform the song for the students once for enjoyment. Play it again and ask them to follow along with their eyes as their fingers point to each note as it's played.

Start Playing measure by measure at a slow tempo. The teacher plays then the students play.

After four measures let the students have 5 minutes to work at their own pace very softly.

(This can get very noisy so monitor what's going on)

If they are having trouble use the "Say it then Play it" method of calling out the note names while you clap the rhythms. Then utilize the same method as they finger the notes (without blowing) on the recorder as they say the note names. Use the suffix "es" for flat notes and "eese" for sharp notes.

Use two rows so each student is sitting with crossed legs facing their partner. One student will point to the note while the other student will play the note. Have them switch their jobs after each time through.

while the other student will play the note. Have them switch their jobs after each time through.

上記は略案であるが、「目標」(Goals)には内容目標(Content Goals)に見られるように全米芸術標準の内容標準に明確に対応することが求められている。これは米国の音楽教科では統一された教科書が存在せず、指導の根拠となるものが必要であるためである。「学習結果」(Learning Outco

mes)、「評価」(Evaluation)は、日本の学習指導案では「題材の目標」および「評価の観点」が対応する部分である。「予習行動」(Prerequisite Behaviors)が設定されていることも、教科として音楽を捉えていることを示している。「本時の展開」(Procedure)ではそのプロセスだけが記されている。本時の展開においては、導入→展開→まとめというプロセスが授業として成立しやすく、推奨される。本来の学習指導案では、なぜその指導が必要であるかの根拠としての学習上の留意点や評価について、さらに詳細な説明が必要と思われるが、他に参観した学校の指導案も同様の様式であった。

表4はモセラ先生の時間割である。1日が7時間授業であり、休憩時間は移動の5分間である。また、昼食時間を除くと週5時間の準備時間と授業である。つまり教師と児童にとって学校とは学習し指導を受ける場であり、遊びの主体は家庭であることが理解できる。この時間割では授業は毎日14時40分に終了するが、筆者が15時30分にこの小学校を訪問した時点では、学校にいた児童は数人であった。表4はモセラ先生の年間授業計画である。訪問時は2006年度であったが、計画は昨年度である。本年度も以下の計画に準じる。

表3 モセラ先生の年間授業計画(2006年9月~2007年6月)

<i>Music Curriculum Outline 2005-2006</i>										
	Sept <i>Beailes</i>	Oct <i>Beethoven</i>	Nov <i>Baba Tunde</i>	Dec <i>Irving Berlin</i>	Jan <i>Mozart</i>	Feb <i>Scott Joplin</i>	March <i>Clara Schuman</i>	Apr <i>Bach</i>	May <i>Rabin &amp; Anath Tagore</i>	June <i>Raymond Scott</i>
Third Grade	Rhythm Identification of note durations for use with rhythm instruments.	What is an Orchestra? Instrument families and identification of sounds. Order Recorders	Melody Pitch/ Note names Learn to play Various songs from songbook	Composition with recorders in groups and alone.	Dynamics Volume, symbols, and foreign language names for each	Music and the internet NYPhilharmonic website Exploring past and present subjects of study online	Musical Layers Poems, and written work with multiple parts.	Music and stories. Peter and the wolf/ Jumanji	Movie music Jumanji, Star Wars, Planet of the Apes How does music effect movies?	
Fourth Grade	Review Recorders Getting settled	Musical Inspiration Talk about heroes Play Copeland Compose	How does sound work? Home made gram aphones. Records vs. CD's	Found Sounds Recording project w/o traditional instruments. Perform rhythms only.	What is Musical Form? Structure in music Group Composition	Found Sounds Song creation with previous recordings.	What is Orchestration? Computers and NYPhilharmonic website <b>(NOT GOOD FOR A WHOLE MONTH)</b>	What is a Musical Score?	Creating a final project. Keyboards and laptops, music sequencing	?
Fifth Grade	Review Recorders Getting settled	Musical Ghost Story Focused listening recorder playing/ composition	Finish up ghost stories Gershwin/ Rhapsody in Blue	Finish up Gershwin Focused listening hearing whole pieces	Music and computers. Sequencing with samples. Hip-Hop	Musical Portrait of Abe Lincoln Learn melodies from the period Compose	Harlem by Duke Ellington Babatunde Astoria by "The Students"	Graduation Theme 3 parts with accompaniment Discuss feelings about leaving compose	?	Graduation Rehearsal

表4 モセラ先生の時間割 (2006年9月~2007年6月)

表3 Mosera先生の時間割							
	1	2	3	4	5	6	7
	8:20- 9:10	9:15-10:05	10:10-11:00	11:05-11:55	12:00-12:50	12:55-13:45	13:50-14:40
Monday	Flutes Beginner	Clarinet Beginner	4-338 (Yovino)	P	L	3-313 (Aslanis)	Brass
Tuesday	Fl.Cl.Sax Advanced	Saxes Beginner	3-322 (Liolin)	5-302 (Kyriakopoulos)	L	Drums Bigi.&Adv.	P
Wednesday	Clarinet Beginner	Brass Beginner	3-316 (Delakas)	Saxes Beginner	L	5-332 (Papadimi)	P
Thursday	P	Flutes Beginner	4-346 (Mehelakes)	5-332 (Papadimi)	L	1-253 (Raia)	5-302 (Kyriakopoulos)
Friday	P	Drums Bigi.&Adv.	4-339 (Zervas)	L	3-326 (Riconda)	Advanced Band	5-300 (Capous)

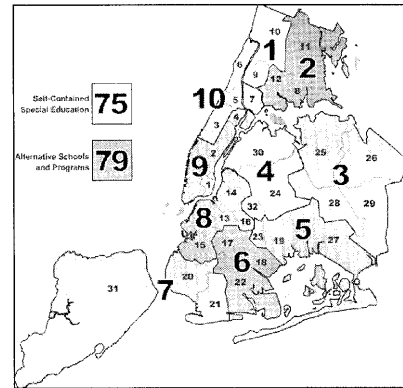
## おわりに

ニューヨーク市は東部のメガシティ（註7）の中でも多文化・他民族の都市である。その多文化を活かした（尊重した）地域活性化が現在進行中である。しかし小学校レベルではこれらを活かした授業創りは大変幅広く工夫が必要で、実施においては困難が予想される。この学校教育に米国人としてのアイデンティティを盛り込むプロセスは、今後において筆者として大変興味があるテーマである。批判を恐れずに言えば、国旗と国歌の下でのみ国民を一つに出来ない国がどのようにその国民性を保持できるのか。その答えは初等教育が鍵を握っていると考ええる。その初等教育における音楽教育は、音楽を媒介にして世界とコミュニケーションを取ることが出来る、汎用性が高い教科であると考ええる。

米国では「危機に立つアメリカ論」以来 Goal of 2000、No child left behind 等、教育に対する重点的な施策が次々と発表され、その施策の一つとして全米教育標準が発表された。このダイナミズムの中で今後音楽教育がどのように発展するのか見守りたい。そしてこのプロセスが日本の音楽教育に活かせることがあれば取り入れたい。特にパフォーマンス性に優れた音楽教育は平均的音楽教育に優れているが、米国と比較して個々の表現力が乏しい日本の音楽教育にはぜひ取り入れていきたい部分である。また音楽と他教科との関連性についても考えねばならない。今回は米国における芸術標準を考察したが、その教育現場ではどのように有効に作用し効果を得ているかが今後のテーマになりそうである。

註

- 1 Blueprint の本文中では太字で示され、本論では原文のままの音楽作品を示している。
- 2 12学区の内訳は図3のとおりで、75学区は Special Education、79学区は Altanative School の学校群である。
- 3 New York City Department of Education (<http://schools.nyc.gov/default.aspx>)
- 4 The New York State School Report Card (Accountability and Overview Re-port 2005-06)
- 5 K から Grade 5までのニューヨーク市の平均クラス人数は20.8人～26.2人（2005年度）である。  
([http://schools.nyc.gov/daa/SchoolReports/default\\_cont.asp](http://schools.nyc.gov/daa/SchoolReports/default_cont.asp))



(図3)

- 6 National Standards for Arts Education の Music では、K-4、5-8、9-12の3区分においてそれぞれに9項目の Content Standards とそれぞれの達成指標として Achievement Standards が設定されている。Mosera 先生の指導案では Content Goals に示されている ( ) の数字は、以下に示す National Standards K-4の Content Standards である。これらは “New York State Learning Standards” における Learning Standards “Blueprint for Teaching and Learning in the Arts” の Repertoire in Music: Why It’s Important における、5項目の Strands 設定基礎となる重要な部分である。

- Content Standard #1: Singing, alone and with others, a varied repertoire of music  
〔様々な分野の音楽を個人または他の児童と歌う〕
- Content Standard #2: Performing on instruments, alone and others, a varied repertoire of music  
〔様々な分野の音楽を個人または他の児童と楽器で演奏する〕
- Content Standard #3: Improvising melodies, variation, and accompaniments  
〔旋律や変奏、伴奏を即興演奏する〕
- Content Standard #4: Composing and arranging music within specified guidelines  
〔具体的な指導指標に沿った作曲と編曲〕
- Content Standard #5: Reading and notating music  
〔音楽を読譜し記譜する〕
- Content Standard #6: Listening to, analyzing, and describing music  
〔音楽を鑑賞し分析し、説明する〕
- Content Standard #7: Evaluating music and music performances  
〔音楽を評価し演奏する〕
- Content Standard #8: Understanding relationships between music, the other arts, and disciplines outside the arts  
〔音楽と他の芸術、芸術外の教科との関連性を理解する〕
- Content Standard #9: Understanding music in relation to history and culture  
〔音楽における歴史と文化の関連性について理解する〕

- 7 国連の定義によると、Megacity (メガシティ) とは、1,000万人以上の人口が居住する都市を意味する。2005年現在、世界で17のメガシティが存在する。(2005年国連データ)

引用・参考文献

- 1 小学校学習指導要領解説 音楽編 平成11年5月 文部科学省
- 2 新村元植 ニューヨーク市における初等音楽教育—I.S. 145 School, P.S. 148 School の音楽教育 2005年 日本音楽教育学会 音楽教育ジャーナル第3巻第1号 p.p.86-93
- 3 新村元植 ナッシュビル市教育水準とウエストミード小学校における音楽授業 2006年 鹿児島女子短期大学 紀要第41号 p.p.123-142
- 4 新村元植 マサチューセッツ州の芸術教育水準と米国ボストンの初等音楽教育 2007年 鹿児島女子短期大学 紀要第42号 p.p.169-191
- 5 Richard F. Elmore 著 神山正弘訳 現代アメリカの学校改革—教育政策・教育実践・学力2006年 同時代社
- 6 “Blue print for teaching and learning in the arts” 2004 New York City Department of Education
- 7 “Music from the Inside Out A Resource Guide for Music Teachers” 2004 New York City Department of Education

(2007年12月5日 受理)